

令和2年度 第2回自己評価の解説

設問項目	肯定的回答(%)			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問1】 楽しい場	88	91	100	9割近くの生徒が学校生活は楽しいと回答しており、昨年度と同数になっている。1回の結果と比べると生徒が4%、保護者で2%の下回っている。引き続き生徒指導の三つの機能（生徒に自己決定の場を与える・生徒に自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する）をあらゆる教育活動の場に生かしながら、日々の活動での観察や教育相談等を通して、より一層の生徒理解に努めていく。
【設問2】 学校施設	90	96	79	生徒・保護者では9割以上が肯定的な認識を持っている。各施設は新しく便利という意見が多い。その一方でオンライン授業やリモートを使用する環境が整っておらず、多くの行事が学年別や放送を使つての実施となっており、前回を下回る結果となったと思われる。現在、年末に全学級にテレビモニターを設置が完了し、職員の校内研修を行ったところである。卒業式等の教室での視聴参加を検討中である。
【設問3】 情報発信	85	85	83	休校期間中から学校だよりや学級通信などを定期的に発行しているが、コロナ禍において多くの行事や授業参観等が実施できず、生徒・保護者・職員すべてで肯定的な回答が前回より下回っている。今年度も学校だより「刮目」は5月の休校期間中から発行し、1月までに10号発行している。また、学年・学級だより・HPの更新を定期的に行っている。まだしばらくはコロナ感染拡大防止のため授業参観等の実施が難しいと思われるので、より細かな情報発信を心がけていく。
【設問4】 地域交流	63	59	63	生徒・保護者・職員すべてで前回を下回っている。各行事の中止や自粛に伴い、職場体験学習や交通安全教室、その他の地域と連携した行事など多くの行事がなくなり、校外での活動がなくなったためと思われる。2学期には学校にお招きしての「企業人に学ぶ」やリモートによる「キャリア教育後援会」などを行った。今後も実施できることを可能な限り工夫して実施し、「社会に開かれた教育課程」の可能な限り実現を目指し、地域の方々との交流が深められるように工夫していく。
【設問5】 いじめ防止	77	77	96	生徒・保護者・職員すべてで前回を下回っている。日常的な教育相談やいじめアンケートを実施し、いじめ案件について早期発見・早期対応を心掛けて取り組んでいるが、SNS等への書き込みに係る内容が増え、相談があった。 今年度はコロナ禍のために生徒会主体の全校「いじめゼロ集会」などを放送で実施したり、コロナ感染者に対する偏見や差別が無いようにと「シトラスリボンキャンペーン」に学級で取り組むなど、いじめは絶対にあってはならないという意識を持たせるように取り組んでいる。今後も、生徒が安心して毎日登校できる環境をつくるため、いじめの早期発見・早期対応に努めていく。

設問項目	肯定的回答 (%)			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問６】 わかる授業	91	83	96	生徒・保護者・職員すべてで前回を下回っている。生徒に「わかる授業」を展開し、学力向上をさらに進めるために授業改善をしているところである。学校再開後は１・２年生ではできるだけ積み残しが出ないように、３年生は入学試験に間に合うように授業を進めているため、例年よりも進度が多少早いことや、テスト範囲も広がっているためと思われる。 各教科では授業で使うプリントや教材を工夫し、少しでも生徒の負担が減るようにしているところだが、今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、さらに職員研修・授業実践を推進していく。
【設問７】 誠実な 相談活動	86	84	96	肯定的な回答が８割を超えているが、一部生徒・保護者からは職員への改善要望がある。生徒に対しては、職員のしっかりとした人権意識と発達段階に即した確かな生徒理解が不可欠である。また、保護者に対しては、職員の接遇マナーのあり方も見直す必要がある。定期的な相談活動だけでなく、毎日の生徒や保護者との関わりを大切にして、信頼関係を築いていく。
【設問８】 生徒理解 公平な評価	80	82	96	生徒・保護者・職員すべてで前回を下回っている。より一層生徒・保護者との対話を丁寧に行い、生徒理解・信頼関係づくりに努めていく。また、評価については、客観性が高く生徒・保護者が理解しやすい評価のあり方、生徒の学習意欲を高めるための評価方法の工夫が必要である。
【設問９】 教育環境	88	90	96	生徒・保護者・職員すべてで前回を下回っている。校内の掲示物については生徒の作品や生徒の興味・関心を高めるタイムリーな内容の作品を丁寧に作成・掲示している。しかし、コロナ禍においてオンラインやリモートの環境整備が整っていないための密を避けながらの学年別集会や多くの校内行事が中止や縮小しての実施となった結果と思われる。現在、全学級テレビモニター設置が完了し、今後は活用を進めていく予定で、学校生活の充実に役立つ環境整備に努めていく。
【設問１０】 授業への取組 ・時間を守る	88	91	100	職員の肯定的な回答は１００％で前回を上回っている。コロナ禍のために手洗いや検温の確認時間を確保するために生徒がよく努力しているためと思われる。学習委員会による２分前着席の呼びかけ活動により、生徒の授業への取組は概ね良好である。今後も望ましい学習習慣の確立を図りながら、体験的・問題解決的な学習を積極的に展開し、生徒の学習意欲と学力向上に努めていく。
【設問１１】 交通ルールを 守る	93	77	67	生徒・保護者・職員すべてで下回っている。今年度は朝の検温確認や手洗い指導で職員が対応しているため交通指導が学校付近のみとなったり、交通安全教室やＰＴＡ合同交通指導が中止となり、例年より指導が徹底していない所がある。 また、地域・保護者の方々から生徒の自転車の乗り方についての御意見・御指導をいただくこともある。現在１年生では毎学期交通安全アンケートを実施し、交通安全に対する意識づけの機会を設けている。今後も保護者等の協力を得て、繰り返し交通安全に関する指導を強化していく。

設問項目	肯定的回答（％）			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問１２】 元気な あいさつ	８８	７７	８８	生徒・保護者で前回より下回っている。６月からの学校再開後に生活委員会によるあいさつ運動、部活動でのあいさつなど生徒の活動を通して習慣化するように取り組んでいるが、保護者が来校した際の挨拶が減ったという御意見をいただいている。今後も社会生活を営んでいく上で重要であるあいさつが、さらに定着して習慣化するように継続的に指導していく。
【設問１３】 身だしなみ	９１	９４	１００	昨年度同様、生徒・保護者・職員すべてで９割を上回っている。生徒の規範意識の向上が、服装や身だしなみにあらわれている。今後も清潔感のある中学生らしい身だしなみで生活できるよう指導を継続していく。
【設問１４】 清掃活動	９２	９１	８８	生徒・保護者で前回より下回っている。多くの生徒が積極的に清掃活動を行っているが、生徒会活動・学校行事を行う際に手洗いや給食準備時間確保のために清掃を中止したり、早めに終了しているためと思われる。生徒の安全に配慮しながら今後もきれいな学校で学習できるように職員による率先垂範を心がけながら、生徒が公共心や勤労の精神をもって意欲的に清掃活動に取り組むように指導していく。
【設問１５】 保護者の参加				今年度は入学式に１年生の保護者が参加したが、それ以降は運動会・授業参観・ＰＴＡバザー・合唱コンクールなどが中止や無観客で生徒のみで実施したため、設問１５についてはアンケートの回答を中止した。